

○人口動態などの状況

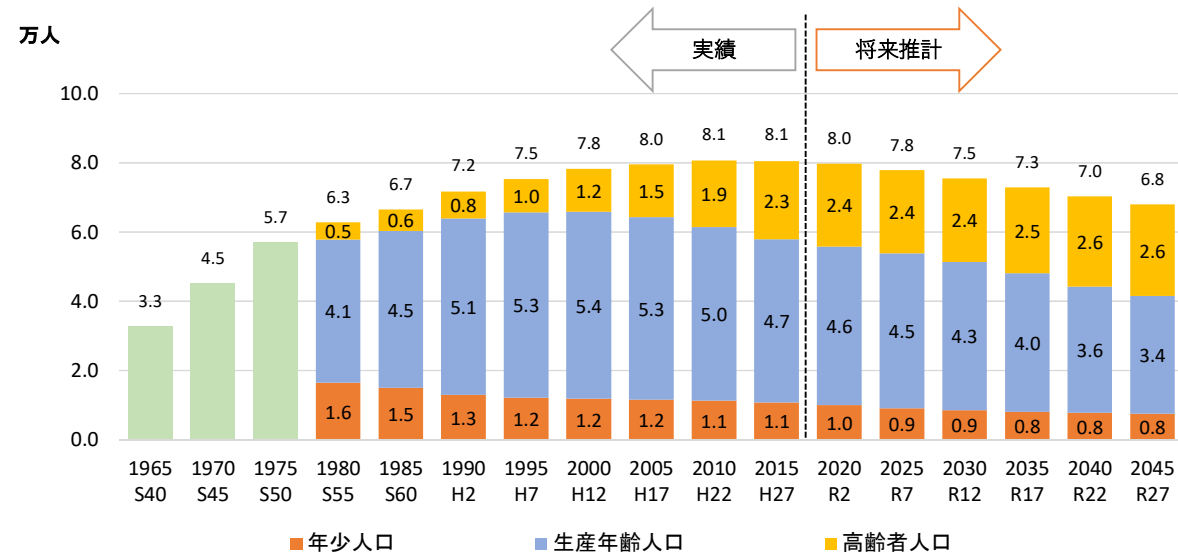
1 推移及び将来推計

本市の人口は、昭和 40 年代から 50 年代に急増し、平成 24（2012）年の 8.2 万人をピークに減少傾向に転じました。平成 27（2015）年では約 8.1 万人、令和 2（2020）年では約 8.0 万人です。

将来推計においても減少傾向は継続し、令和 27（2045）年で、総数約 6.8 万人の推計であり、平成 27（2015）年からの約 30 年間で約 16%（約 1.3 万人）の減少が見込まれています。

表 人口の将来推計

| | 平成 27(2015)年 | 令和 27(2045)年 | 増減数 | 増減率 |
|--------|--------------|--------------|-----------|--------|
| 総数 | 約 8.1 万人 | 約 6.8 万人 | ▲約 1.3 万人 | ▲約 16% |
| 高齢者人口 | 約 2.3 万人 | 約 2.6 万人 | 約 0.3 万人 | 約 13% |
| 生産年齢人口 | 約 4.7 万人 | 約 3.4 万人 | ▲約 1.3 万人 | ▲約 28% |
| 年少人口 | 約 1.1 万人 | 約 0.8 万人 | ▲約 0.3 万人 | ▲約 27% |



注 各年の総計には年齢不詳分を含むため各階層の合計と一致しない場合があります。

図 人口の推移及び将来推計

表・図出典：過去実績は、国勢調査による（平成 27（2015）年まで）。
将来推計のうち、令和 2（2020 年）は住民基本台帳により、令和 7（2025 年）以降は、日本の地域別将来推計人口（平成 30（2018）年推計）国立社会保障・人口問題研究所による。

2 地域別状況

平成 27（2015）年に対する令和 27（2045）年の人口増減率を地域別に見ると、戸倉・小宮地区、五日市地区のほとんどの地域で市全体の減少率である約 16%（表 2-1 P. 12）より大きな人口減少率となっています。東秋留地区及び多西地区においては、JR 沿線の人口減少が目立ちますが、一部の地域で人口増加が推計されている地域があります。

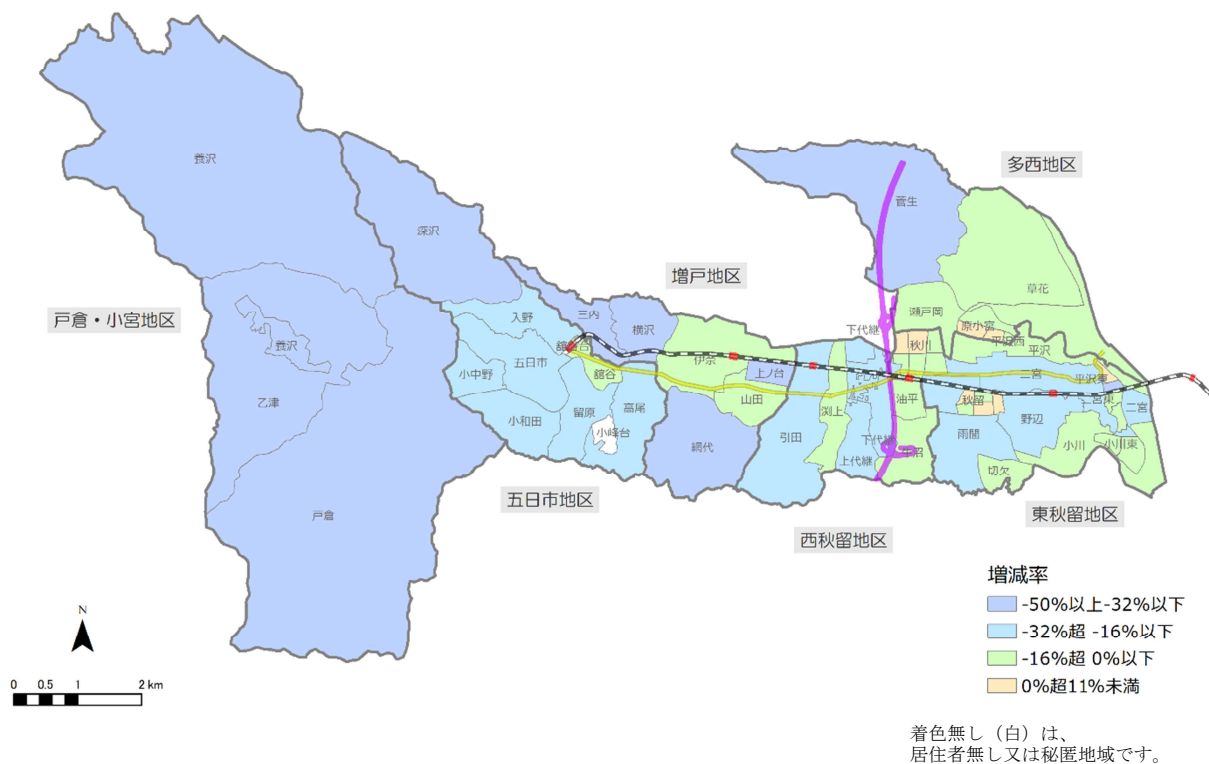


図 人口の将来増減率（地域別）

注 1 「地域」は、国勢調査における小地域に該当します。

注 2 増減率は、平成 27（2015）年の総人口に対する令和 27（2045）年の人口推計値の割合です。

出典：「将来人口・世帯予測プログラム」（国土技術政策総合研究所）を用いて、国勢調査の年齢（5 歳階級）別・男女別人口データ（平成 22 年、平成 27 年）を国立社会保障・人口問題研究所のパラメータで小地域単位の将来人口を予測したもの。